

シベリア抑留のトルコ兵 を救出した津村諭吉中佐

川島 順 予科21-7
(越谷市) 航空7-1

今回は、第一次世界大戦後に1000人を超えるトルコ人捕虜を救った、津村諭吉中佐の話を紹介します。

日本とトルコの友情物語としては、エルトゥールル号遭難事件が有名である。これは1890年(明治23年)に日本に表敬訪問に訪れたオスマン帝国(現トルコ:以下トルコと呼称する)の軍艦が紀州沖で難破し乗員約600人中69名を地元の人たちが嵐の中で救助した話で、映画や各種の読み物として紹介されている。

1. 津村諭吉中佐の功績

一方、津村諭吉中佐の話は余り知られていない。この事件は平明丸事件と呼ばれ、第一次世界大戦中コーカサス前線で6万5千人のトルコ軍の兵士がロシアの捕虜になった。1918年、日本軍のシベリア出兵時、ウラジオストックを占領した日本軍はトルコ軍捕虜への責務を引き継いだ。

第一次世界大戦後に日本はシベリアの収容所に収容されていたトルコ兵1012人とその妻19、子供17人をトルコに送還するため、日本の輸送船、平明丸でイスタンブールに輸送することが決定された。1921年2月23日にトルコ兵を乗せた平明丸はウラジオストックを出発した。

しかし、イスタンブールへ到着する直前、平明丸はエーゲ海の沖でトルコ軍と対立していたギリシャ軍に拿捕された。ギリシ

ャ軍はトルコ兵の引き渡しを要求したが、平明丸の司令官、津村中佐はそれを拒否したため、平明丸はギリシャ軍に長い間抑留されてしまった。食料が少なくなっていく中、津村中佐と日本の乗組員はトルコ兵と共に船内に立て籠もりギリシャ軍に抵抗し続けた。

数ヶ月後、イタリアの仲介案により、1921年10月18日平明丸はイタリア領アシナラ島でイタリア側にトルコ兵を引き渡すことになり、日本の乗組員とトルコ兵はそこで別れたが、トルコ兵が最終的に祖国に戻ったのは、1922年6月25日であった。

2. 津村中佐の功績トルコ新聞に掲載

2020年2月16日のトルコ新聞「Hurriyet(平和)」に「我々は津村のことを決して忘れていない」と題して、津村諭吉中佐の功績を紹介している。



トルコ新聞の津村中佐と平明丸

3. 平明丸事件のトルコの映画上映

2019年トルコで平明丸事件のドキュメ

ンタリー作品が製作された。このドキュメンタリーはトルコ人女性映画監督のハイリエ・サバシュチュオールにより制作された。題名は「平明丸 母国トルコへ帰るとき」。

このドキュメンタリーの上映会が2019年11月4日、ユヌス・エムレ・インスティトゥート東京で開催された。翌日エルトゥールル号遭難事件の地元の和歌山県串本町で上映された。



映画のポスター・平明丸と船上のトルコ兵

4. 津村諭吉通りイスタンブールに誕生

2019年、トルコの最大の都市イスタンブールに津村諭吉中佐の名前が冠された「YUKICH・TSUMURA」通りは、海辺沿いのベイコス区に誕生した。全長1.3kmと短いが近くにトプカプ宮殿がある風格の高い場所である。

津村通りの設置はベイコス区議会及びイスタンブール市議会で全会一致で2019年1月承認された。

2020年3月3日、日本の西牧総領事はベイコス地区のムラト・アィドゥン区長を訪問し、謝辞を述べた。